2017年5月１日発行（毎月1回1日発行）No.989号

JA全農えひめ情報

みぐりーど

5

2017・May

■特集

平成29年度「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組み

JA全農えひめ
もっと近くに。

▶「にこまる」で作ったおにぎりを試食した中村知事は、「粘りが強くて美味しい。多くの人に知ってもらいたい。」と販路拡大に期待を寄せていました。

愛媛県産「にこまる」食味ランキング特A獲得

今年2月23日に発表された一般財団法人日本穀物検定協会の「平成28年産米食味ランキング」で、愛媛県産「にこまる」が最高ランクの「特A」を獲得しました。

「にこまる」は、「コシヒカリ」の血を引く良質米から生まれたお米。「笑みがこぼれるほどおいしい品種で、丸々とした粒張りの良いお米」ということから名づけられました。

JA全農えひめは、平成26年産から本格導入を進め、㈱ひめライスとともに「にこまる」を愛媛のブランド米として確立しようと、県など関係機関と連携して、良食味・安定生産技術の確立と普及に取り組んできました。平成26年度からは、愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」を活用した精米袋の作成やテレビCM放映等を通じて、消費・販売拡大と認知度向上に努めています。

4月4日には、JA全農えひめの小越愼介県本部長と㈱ひめライスの松田一人社長が、愛媛県庁に中村時広愛媛県知事を訪問し、「にこまる」の特A獲得と愛媛県産「にこまる」のブランド確立に向けた取り組み等について報告。

㈱ひめライスは、定番5アイテムの米袋に、特Aを獲得した内容の「告知シール」の貼付や、特A獲得を前面に打ち出したのぼりとポスターを新たに作成し、3月下旬以降、売場でのアピールをしています。

JA全農えひめ情報

あぐり～ど

May 2017

C O N T E N T S

農の風景Vol.197
愛媛県産「にこまる」食味ランキング特A獲得

2 〈特集〉
平成29年度「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組み
「魅力増す農業・農村」の実現に向け、農業者の所得増大と農業生産拡大を！

8 オレンジデーイベント開催

9 統計BOX

10 ふるさと ESSAY VOL.265
柔道とともに歩む
棟田 利幸さん

12 TOPIC NEWS

16 READERS通信
NOW NOW COOKING
〈今月の素材〉豚モモ肉（ふれ愛・媛ポーク）

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- ○営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- ○安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- ○地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙

青空に届けとばかりに、天に向かって実がなるソラマメ。もっと太って実が重く、垂れてくる頃、採り頃です。サヤを開けばぷっくらと、大きな豆が今にも飛び出しそうな成長っぷりです。
子どもたちもソラマメのように、すくすく、まっすぐ、大志を抱いて成長していきますように。願いのこもる鯉のぼりが空高く泳いでいます。

●表紙：ソラマメの収穫
はら ふみ（イラストレーター）

※『あぐり～ど』は、「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（Lead）する」という意味と「心を一つにする（Agreed）」という意味を込めています。

JA全農えひめ

ホームページ
http://www.eh.zennoh.or.jp

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆㈱えひめ飲料
http://www.ehime-inryo.co.jp

◆JAえひめアイパックス㈱
http://www.iyokkora.jp/

◆JAえひめ物流㈱
http://www.jat-ehime.co.jp/

◆JAえひめフレッシュフーズ㈱
http://fresh-ranran.jp/

◆㈱ひめライス
http://www.himerice.jp/

◆JAえひめエネルギー㈱
http://www.ja-ehimeene.co.jp

特集

「魅力増す農業・農村」の実現に向け、農業者の所得増大と農業生産拡大を！

ＪＡ全農えひめは、平成28年度からの３年間、ＪＡグループ自己改革の「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」（共通目標：販売品取扱高の拡大）の実現に向けて、「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開しています。

２年目となる平成29年度は、「魅力増す農業・農村」の実現に向け、ＪＡや耕種事業部門間の更なる連携強化により取り組みを加速し、農家手取り最大化と愛媛農業の振興に貢献していきます。

深化・拡充する重点施策

平成29年度も、①新たな需要への対応や共販量・企画販売・販路拡大に向けたマーケットイン（実需者ニーズ）に基づく生産・販売方式への転換、②生産流通コスト引き下げによるトータルコスト低減、③担い手へ出向く活動による多様な農業者ニーズへの対応－を重点施策として深化・拡充していきます。

生産振興施策として、ニーズに基づく業務用多収穫米の実証および加工業務用需要に対応した産地基盤の再構築、水稲大口生産者へのフレコン出荷提案、温州みかんの反収・正品率向上による出荷量の確保、キウイフルーツの面積・出荷量の維持、重点野菜８品目の生産振興目標の明確化（ドリームプランの実践）に取り組みます。

コスト低減施策では、米麦の一般高度化成肥料８銘柄を２銘柄程度に、果樹用配合肥料62銘柄を５銘柄程度に集約することで価格引き下げを図ります。また、規格型低コストハウスや機能を絞った低価格モデル農機の普及、機能性段ボール・包装資材の企画提案を進めます。

図１　農業者所得増大チャレンジ事業の概要

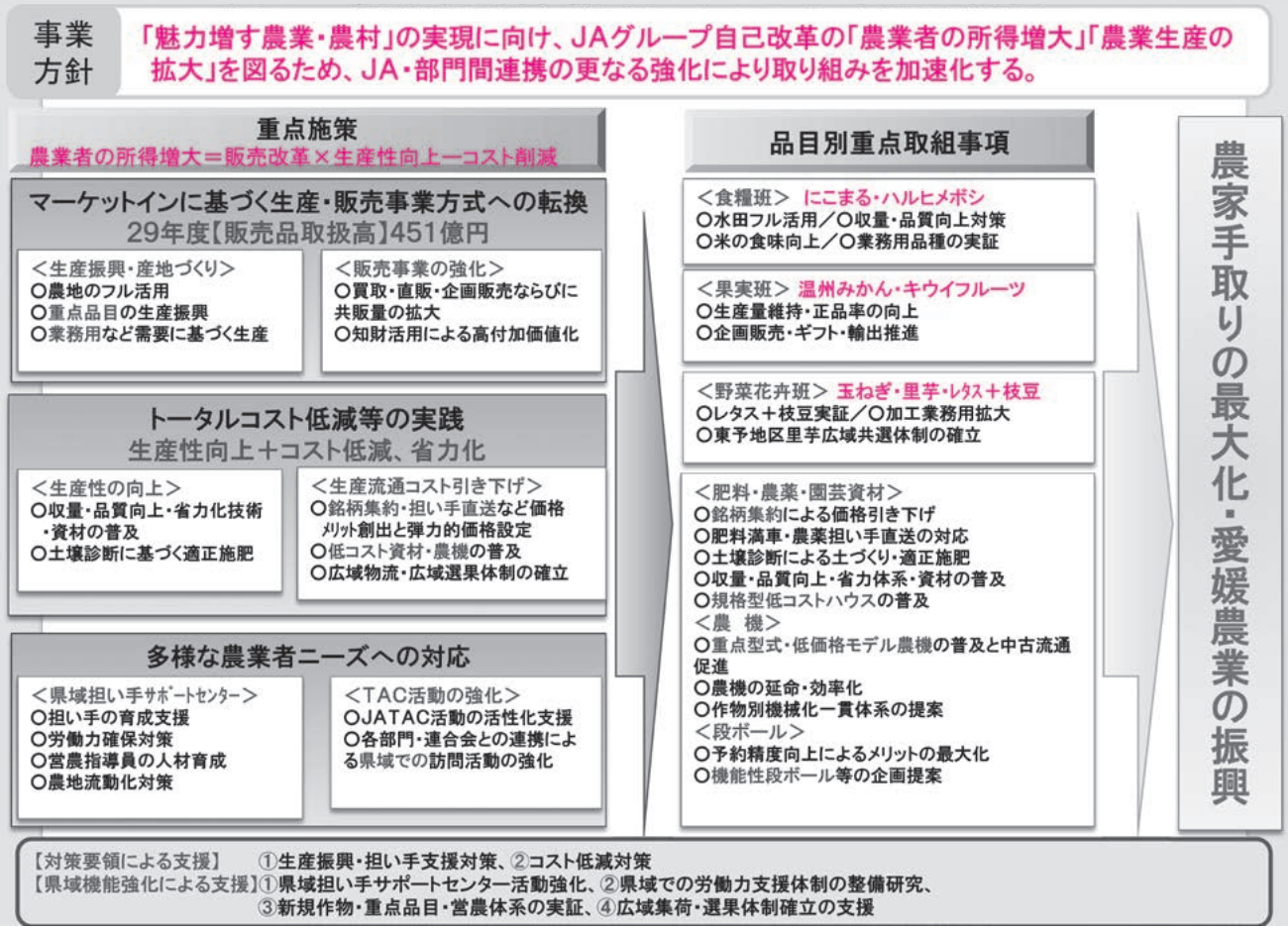


図２　農業者所得増大チャレンジ事業　29年度深化・拡充する主な取り組み

マーケットインに基づく生産・販売事業方式への転換

○ニーズに基づく業務用多収穫米の実証および加工業務用需要に対応した産地基盤の再構築
（多収穫米：9JA・13ha、加工野菜：玉ねぎ18ha900トン・里芋16ha400トン）
○水稲大口生産者へのフレコン集荷提案　4JA
○温州みかんの反収・正品率向上による販売量の確保　55，000トン
○キウイフルーツの生産指導実施及び面積・販売量の維持　キウイ5，450トン（内ゼスプリ650トン）
○重点野菜8品目の生産振興目標の明確化　ドリームプランの実践
（きゅうり・トマト・ピーマン・なす・いちご・里芋・玉ねぎ・レタス＋枝豆）

トータルコスト低減等の実践

○米麦の一般高度化成8銘柄を2銘柄程度へ集約　目標10～20%の価格引き下げ
○果樹用配合肥料62銘柄を5銘柄程度へ集約　目標5～10%価格引き下げ
○規格型低コストハウスの普及　目標10棟
○機能を絞った低価格モデル農機の普及推進
○機能性段ボール及び包装資材の企画提案　新規3品目

多様な農業者ニーズへの対応

○TAC活動を通じた担い手支援要領　担い手の育成支援を強化
○TAC活動の活性化支援と県域による農業法人・若手農業者への訪問強化　75経営体
○JA愛媛担い手サポートセンター連絡協議会の最重点取組事項
「担い手の育成支援」「労働力確保対策」「営農指導員の人材育成」「農地流動化対策」

農業者ニーズ対応では、担い手の確保・育成支援の強化、TAC活動の活性化と県域による農業法人・若手農業者への訪問を強化します。また、中央会、各連合会と連携し、JAグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会として最重点取組4事項についてJAの取り組みを一体的に支援していきます。

【マーケットインに基づく生産・販売方式への転換】

1. 米麦

平成28年度、購買部門と連携して栽培体系試験を実施し、「深耕」「堆肥の施用」「土壌改良剤の施用」「疎植」を組み合わせることによって、根量の増加、収量アップにつながる傾向が見られるなど一定の成果が得られました。

29年度は、継続して試験を行うとともに新たな実証圃を設置し、県内全域への取り組み拡大を図ります。また、生育・収量調査のデータ解析と産地へのフィードバック、深耕実施時に生産者対象の実演会を通じて、啓蒙を図ります。

業務用向け多収性品種の検討においては、1年目の実証で多収性が確認できた「あきだわら」に加え、新たに「やまだわら」「とよめき」「萌えみのり」「ふくのこ」を試験品種として導入し、県内9JA13haで適応性を実証、確認することとしています（28年産は1ha）。

水稲「にこまる」は、生産者・JA・県など関連機関が連携して食味向上に取り組んだ結果、平成28年産で米の食味ランキング「特A」を獲得することができました。継続して玄米サンプルの品質分析と栽培概要の解析による良食味・高品質・安定生産対策を実施するとともに、「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」においても「特A」獲得となるよう品質向上に向けた取り組みを進めます。

はだか麦の「ハルヒメボシ」は、栽培技術の確立と収量アップに向けた取り組みを継続し、平成30年産よりJA単位で「マンネンボシ」から「ハルヒメボシ」への品種転換を進めていきます。

2. 果実

果実では、温州みかん、キウイフルーツを最重点対策品目として位置付け、生産振興・販売対策を強化していきます。

生産面では、放任園対策、加工誘導対策事業などを活用するほか、県域での労働力支援の検討を行い生産量の維持を図ります（平成28年産4、431ha→平成30年産4、352ha）。また、温州みかんの反収向上対策として、「高品質果実生産支援事業」の活用や肥料農薬部門と連携を強化し、定点土壌診断調査・分析に基づく土壌改善を行っていきます。28年度は愛媛県内主要4JA74地点（えひめ南21点・にしうわ17点・えひめ中央20点・おちいまばり16点）の調査を実施するとともに、各JAへ個別の処方箋によりフィードバックを行っています。品質及び正品率（反収）の向上を図るため、マルチ被覆及びフィガロン散布による、着果量の調整と生育後期（浮皮防止対策を含む）の品質向上等、正品率を平成27年産55％に対し平成29年産69％に上げることで、面積減少をしても出荷量6万tを維持していきたいと考えています（平成28年産実績5万t・平成29年産目標5万5千t）。

また、キウイフルーツはかいよう病の拡大防止及び立枯れ症等の防止、老木樹の改植推進、健全花粉の安定供給による生産数量の確保と品質向上を図ります。

販売面では、温州みかんは果樹需給調整対策事業を活用し、下等級品の市場隔離や輸出事業、計画出荷の遵守に取り組みます。また、企画販売を通して販路拡大及び有利販売とギフト企画を柱とした県産品の販売拡充、特定期間に集中した店頭試食販売の展開、マスコミ等へのPR記事掲載による販売拡大をめざします。

3. 野菜花卉

マーケットインに基づき、きゅうり・トマト・ピーマン・なす・いち

表1　品目別重点取組目標

（1）米麦

項　目	28年度計画	28年度実績	29年度計画	備　考
米作付面積	15,100ha	14,700ha	15,027ha	水田活用米穀含む
米集荷数量	16,000 t	13,431 t	15,200 t	水田活用米穀含む
麦作付面積	2,000ha	1,940ha	2,000ha	
にこまる面積	1,700ha	1,500ha	1,600ha	
ハルヒメボシ面積	160ha	162ha	152ha	

（2）果実

項　目	28年度計画	28年度実績	29年度計画	備　考
総販売高	34,773百万円 1,014百万円	33,194百万円 834百万円	33,092百万円 780百万円	果実課 直販課
契約取引等	1,014百万円	471百万円 834百万円	550百万円 780百万円	企画販売 直販課
温州みかん販売量	60,000 t	50,000 t	55,000 t	
キウイフルーツ販売量 （内ゼスプリゴールド）	6,000 t （1,200 t）	4,535 t （635 t）	5,450 t （650 t）	

（3）野菜花卉

項　目	28年度計画	28年度実績	29年度計画	備　考
総販売高	8,631百万円 289百万円	7,867百万円 200百万円	8,095百万円 50百万円	野菜花卉課 直販課
契約取引等	380百万円 289百万円	324百万円 258百万円	423百万円 50百万円	企画販売 直販課
玉ねぎ取扱高	227百万円	155百万円	200百万円	冷玉＋加工業務用
里芋取扱高	603百万円	607百万円	660百万円 50百万円	野菜花卉課 直販課
レタス＋枝豆				モデル実証

ご・里芋・玉ねぎ・レタス＋枝豆の8品目を最重点対策品目に位置付け、ドリームプラン（平成29年産JA愛媛野菜生産者組織協議会生産振興支援要領）を積極的に展開していきます。ドリームプランは、販売先の要望をもとに生産面積確保及び大規模農家育成と反収の高位平準化による生産量確保に向け、①作付け維持支援（新規・増反）、②共同作業支援（生産・調整）、③県域生産課題解消（新技術）実証を通じて、愛媛野菜の生産基盤の維持と持続性のある生産体制モデルを構築していきます。

里芋は面積126ha、共販率向上により3,000tを目標に取り組みます。レタス＋枝豆の収益モデル実証では、1ha規模の生産者10人の確保、レタスは業務加工需要へのストリップレタスによる省力、低コスト化、枝豆は出荷調整作業の省力化（共同選果荷造り）を通して増反を目指します。また、玉ねぎを中心とした加工業務用野菜の生産面積拡大と省力化（生産指導と併せた施肥防除、反収向上対策）、コスト支援等を通じて生産面積の拡大に取り組みます（玉ねぎ生産振興目標18ha）。

販売面においては、加工業務需要の拡充及び買取など直販機能を活用し、中生・晩生品種を基本とした玉ねぎの根・茎付による業者販売（県内外市場帳合い含む）の拡充、ムキ玉ねぎの販路確立に取り組みます。また、里芋は、広域共選体制の確立による流通コストの削減や袋詰め、ムキ里芋の企画販売と冷凍等の高付加価値商材開発、加工筋（惣菜コーナー）への契約販売に取り組みます。

【トータルコスト低減等の実践】

トータルコストの低減に向けて、肥料・農薬・園芸資材・農機・段ボールの生産流通コスト引き下げ・生産性の向上、労働費削減に取り組みます。

生産流通コスト引き下げ対策として、銘柄集約による価格の引き下げ、予約結集に基づく低コスト供給、低コスト規格品、大型規格・大口取引等の物流面のコスト削減により、価格の弾力設定に取り組みます。

生産性向上対策としては、土壌診断に基づく土づくり、省力化・効率化となる農機・資材の提案、技術向上・省力化に向けた各種研修の実施や機械化体系を提案していきます。

1. 肥料農薬

（1）コスト低減対策

ア. 銘柄集約による価格引き下げ（一般高度化成8銘柄を2銘柄程度・果樹用配合肥料62銘柄を5銘柄程度へ集約）

イ. 系統独自農薬、大型規格農薬ジェネリック農薬の普及拡大
ウ. 肥料満車直送や農薬（大規模規格）担い手直送等の担い手ニーズ対応
（2）生産性向上対策
ア. 土壌診断に基づく土づくりと適正施肥
イ. 生育調査や病害虫発生予察情報による適期適正防除の励行
ウ. 実証試験、普及試験等の実施による収量・品質技術の向上
エ. JA指導員や生産者の技術向上のための講習会、研修会等の開催
（3）労働費削減
ア. 肥効調節型肥料や流し込み肥料・水口施用除草剤や豆粒剤型除草剤等の省力技術品目の開発・普及
イ. 「苗箱まかせ」や「温州一発肥料」「播種時同時処理」等、省力営農体系の実証・普及
ウ. 無人ヘリ散布による省力化

2. 園芸資材

（1）コスト低減対策
ア. 被覆資材加工品における低コスト供給向け、重点銘柄を中心とした取り組みによる予約率並びにシェア拡大
イ. 規格型低コストハウスによる施設園芸の掘り起し（直売所・生産者部会）
ウ. 大口取引メリットによる、園芸資材全般のコスト低減策の取り組み
（2）生産性向上対策
ア. 営農部門およびJAの生産振興対策に連動した施設園芸産地の拡大（ハウス補償制度の活用）
イ. JA・県域TACとの連携・協力による担い手への情報提供・導入普及ならびに新規増反に係る園芸資材の供給強化

3. 農機

（1）コスト低減対策
ア. 安価な農機の取り扱い拡充（重点型式早期推進決済による農家メリット還元・低価格モデル農機の普及推進）
イ. 中古農機の流通促進（M－web中古農機情報の登録拡充・定期的発信による成約促進）
ウ. 機械の延命と効率利用（担い手農家の大型格納整備に対し助成）
（2）生産性向上対策
ア. 新技術・新製品情報の提供
イ. 省力化・効率化機械の展示会・実演会の開催
ウ. 作物別機械化一貫体系の提案、里芋分離機や玉ねぎ掘取機のデモ機を設置

4. 段ボール・出荷資材

（1）コスト低減対策
ア. 年間予約目標の精度向上によるメリット最大化の追求
（2）生産性向上対策
ア. 情報収集並びに営農部門との連携によるターゲットへの提案活動の実施
イ. 製函試験・輸送試験の実施

【多様な農業者ニーズへの対応】

1. 耕種部門の連携強化による農業者の所得増大・農業生産の拡大支援

各部門の支援対策要領に加えて、「TAC活動を通じた担い手支援要領」を推進し、耕種部門が連携して農業者の所得増大・農業生産の拡大支援に総合的に取り組みます。
「TAC活動を通じた担い手支援要領」については、4つのメニューにより支援を行います。
○若手農業者就農支援対策では、JATACが若手農業者との接点づくりを行い、就農定着を支援する

ことで将来の担い手確保につなげるとともにＪＡＴＡＣの資質向上・提案力強化・ＴＡＣ活動の活性化につなげます。

○担い手・労働力不足解消対策については、ＪＡ・ＪＡ出資型法人・農業生産法人が実施する。新規就農者育成モデルの構築や、労働力支援体制の整備に対して支援していきます。

○生産性向上対策では、生産性向上に資する資材の提案や活用によって、反収や品質向上・省力化につなげ、農家手取りの拡大に取り組みます。

○生販マッチング支援対策は、農業生産の拡大に向けた「新たな産地づくり」に取り組む担い手・ＪＡを支援し、ＪＡ・全農が一体となってマーケットインに基づく企画販売や加工業務用向け対応を強化します。

図３　ＪＡグループ愛媛
担い手サポートセンター連絡協議会取組計画

【基本方針】「最重点取組事項」を掲げて取り組み、中央会・各連合会が更に連携強化することで「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向けて担い手の育成やＪＡ総合事業による事業支援の強化を一体的に進める

最重点取組事項

【担い手の育成支援】
○新規就農者支援
○集落営農組織・法人の設立支援と加入促進対策
○JA出資型法人の設立支援

【労働力確保対策】
○農家組合員の雇用労働者の募集
○就職支援情報サイトの活用
○JA共選場・集出荷場における作業員の融通

【営農指導員の人材育成】
○営農指導員資格認証研修体系の整備
○各種研修の実施

【農地流動化対策】
○行政等関係機関との連携による農地中間管理事業等の活用支援
○愛媛県農地中間管理機構や法人化・農地集積支援チームとの連携強化

2. 県域担い手サポートセンター活動強化による担い手総合支援

「担い手の育成支援」、「労働力確保対策」、「営農指導員の人材育成」、「農地流動化対策」の４項目を最重点取組事項として掲げ、中央会・各連合会が連携を強化し総合的に担い手を支援していきます。

ＪＡ・連合会の訪問先リストを共有し、大規模経営体・集落営農組織・法人等に対し、合同訪問をすることで、営農・販売・購買・金融・共済事業を一体的に提案・支援していきます。

各種研修会の開催によるＪＡの人材育成支援、労働力確保につなげるための就農支援サイトの構築検討等、さらなる体制強化と見える化を図ります。

3. ＴＡＣ活動の強化とＪＡの人材育成支援

ＪＡが担い手の課題を解決、経営改善等に寄与していくためのステップアップ支援として、月例会・打合せ会等への参加および関連部署からの事業提案・情報提供を積極的に行います。

また、県域ＴＡＣの直接担い手訪問活動を強化し、ＪＡ事業の補完に取り組みます。

4. 県産農畜産物の情報発信・付加価値増大支援

残留農薬検査・生産履歴に基づく食の安全確保の継続、愛フード推進機構と連携した「えひめの食」企画広報番組を通じた県産農畜産物の情報発信と消費拡大支援の継続、関係機関と連携した６次産業化への取り組み支援を行います。

２年目を迎えた平成29年度は「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組みをさらに深化・拡充させ、ＪＡ・組合員と一体となり、農家手取りの最大化と愛媛農業の振興に取り組んでまいります。

4月14日=「オレンジデー」！

道後温泉本館前と松山空港でイベント開催！

４月14日「オレンジデー」は、愛のシンボルであるオレンジなどの柑橘類を贈り合い、愛を育み大切な人との絆を深める記念日です。平成６年に愛媛県内の柑橘生産農家が発案したとされ、ＪＡ全農えひめが平成21年５月、日本記念日協会に登録した記念日です。
ＪＡ全農えひめ果実課は、「オレンジデー」当日、PRイベントとして松山市の道後温泉本館前と松山空港到着ロビーで旬を迎えた愛媛産「清見タンゴール」を配布しました。

道後温泉本館前でサンプリングイベント

４月14日の「オレンジデー」当日、ＪＡ全農えひめ果実課は、ＰＲイベントとして松山市の道後温泉本館前と松山空港到着ロビーで、旬を迎えた愛媛県産「清見タンゴール」を配布しました。
道後温泉本館前のイベントは昨年に続き４回目。ＪＡ全農えひめ園芸部の渡部和光部長が、「オレンジデーは『愛を深める日』です。今日お配りする清見を持って帰って、愛する人と一緒に召し上がってください。」とあいさつし、愛媛いよかん大使４人とＪＡ全農えひめ職員が、４月14日にちなんで、県内外の方４１４人に「清見タンゴール」とリーフレットを無料配布しました。
結婚50年の記念で四国方面に旅行に来ていた新潟県在住のご夫婦は、「オレンジデーを初めて知った。良い思い出になりました。」と話していました。

カップルの記念日として定着を！

松山空港到着ロビーでも、愛媛いよかん大使４人が４１４人に「清見タンゴール」をプレゼント。思わぬプレゼントに、受け取った方は大喜びでした。道後温泉と松山空港のイベントは県内の多くのメディアでも取り上げられ、愛媛いよかん大使が、「オレンジデーがバレンタインデー、ホワイトデーに続くカップルの記念日として定着してほしい」と呼びかけていました。

▲首都圏では、４月８日、９日、13日、14日にオレンジデーフェアを開催。OdakyuOX新百合ヶ丘店等販売協力店のべ20店舗で、ＳＰレディによる試食宣伝を実施。

▲京阪神地区では、阪急うめだ本店でオレンジロード企画として、旬のかんきつアレンジレシピ「ブラッドオレンジのソルベ」試食提案を実施。

知って得する

統計BOX

後継者が同居する販売農家は２割

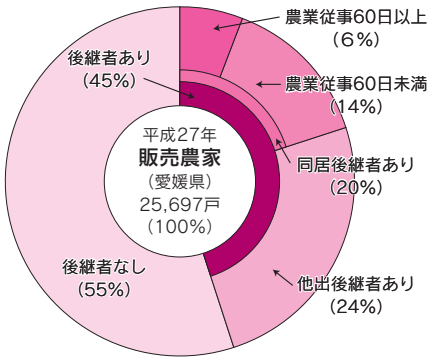
－2015農林業センサス農林業経営体調査結果から－

以前ご紹介しましたが、新規就農者のおよそ5割の方が60歳以上です。読者のなかにも、他産業の退職を機に農業に取り組み始めた方もおられることと思います。しかし、これまで身近に農業と接してなかったり、経験が無い方はご苦労されているのではないでしょうか。そこで今月は、地域農業継承のキーマンである後継者の状況についてみてみましょう。

後継者のいる販売農家は４割強

図１は県内販売農家の後継者の状況です。後継者がいる農家は45％で、その後継者が同居している農家は20％。また、同居している後継者が年間60日以上農業に従事している農家は６％、60日未満の農家は14％となっています。一方、24％の農家では後継者が他出（別居）しています。

図１　後継者の状況（販売農家・愛媛県）



注：小数点以下を四捨五入しているため計と内訳は合致しない。

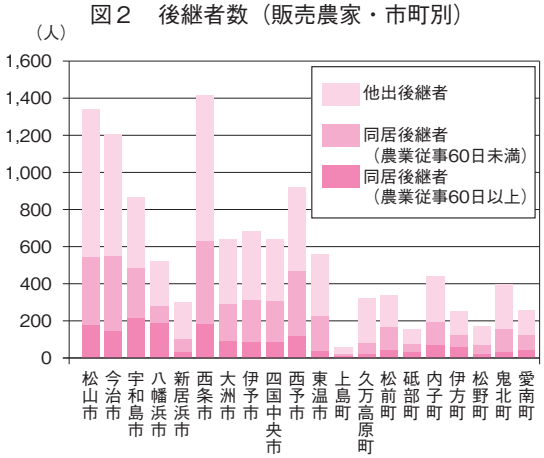
なお、55％の販売農家で後継者なしとなっています。

図２は県内市町別の後継者の状況です。松山市、今治市、西条市など都市近郊で農家数や耕地面積の多い地域では後継者も多いですが、ほとんどの市町では他出後継者の割合が高くなっています。このような中、宇和島市、八幡浜市及び西予市では、他出している後継者に比べ同居している後継者の数が多くなっています。

農業に従事する後継者が多いのは都市部の旧市町村

もう少し詳しく見てみます。図３は県内旧市町村（昭和25年当時）ごとに、60日以上農業に従事している後継者数を地図上に表したものです。松山市、宇和島市、立間村、玉津村、八幡浜市、川上村、日土村、西条市、大洲町、南伊予村、北伊予村及び御荘町の12市町村では、濃い色で表しているように、年間60日以上農業に従事している後継者が21人以上います。

図２　後継者数（販売農家・市町別）

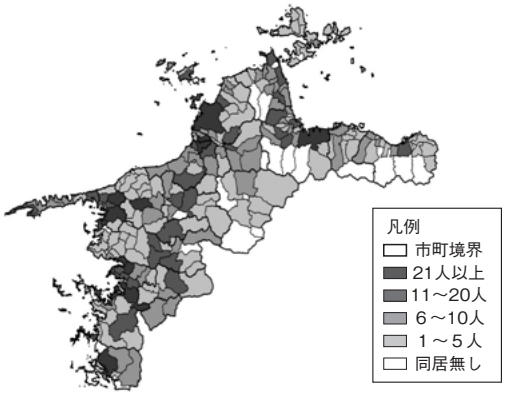


一方、山間部や島しょ部では５人以下の旧市町村が多くみられ、そのうち石鎚山系、高縄山系を中心とした山間部、宇和海沿岸などでは、同居後継者のいない旧市町村もみられます。

後継者不足や高齢化などで、５年後、10年後の展望が描けない農業集落・地域が全国的に増えています。今回、旧市町村までの概要をみてきましたが、農林水産省ホームページではセンサスに基づく集落単位のデータを提供しており、より細かな地域の実態をみることができます（★検索ワード＝「統計情報　地域の農業を見て・知って・活かすDB」）。これらデータが、集落や地域で農業の維持発展に取り組まれている皆さんの一助となれば幸いです。

中国四国農政局愛媛支局　統計チーム

図３　60日以上農業に従事している同居後継者数
（販売農家・旧市町村別）



柔道とともに歩む

棟田利幸
TOSHIYUKI　MUNETA

昭和23年11月1日、松山市西石井出身･在住の68才。柔道家、四国代表として昭和46年から10年連続全日本選手権出場経験を持つ。講道館柔道八段。柔道場「棟田武道館」、会長。愛媛県柔道協会では会長など歴任し、現在は顧問。
柔道家・棟田康幸の父。
市立石井中学校2年、柔道を始める。
県立今治南高等学校へ柔道留学。日本大学へ進学し、柔道をしながら教職の取得を目指す。昭和46年、愛媛県警察を拝命し、勤続38年の多くを後進の柔道指導にあたる。平成21年3月定年退職。
梶原一騎原作の「空手バカ一代」に芦原英幸のライバルの一人として登場する柔道家・雲井代悟は棟田利幸がモデル。
■棟田武道館
住所：松山市西石井6－5－35（石井小学校　北100m）
TEL：089－905－0666（道場）
　　089－956－5734（事務所・FAX兼）

中学2年生の10月、力では誰にも負けない自信があった私は初めて柔道の試合に挑みました。図らずも2位。国技の相撲に興味があった私でしたが負けん気に火がつき、その後の柔道人生へと突き進むことになります。

高校は今治へ柔道留学し頑張りましたが個人戦の記録はありません。団体試合は1年生から選手となり、3年間愛媛県総体と四国総体で優勝、全国高校総体ベスト8は2回。大卒後、愛媛県警に就職し四国選手権で10年連続優勝、全日本選手権大会に10年連続出場。四国選手権は180cm120kg位の体格の良い人が多い中、168cm95kgの私は、どんなに大きな人にも絶対に負けない強い気持ちを持っていました。連続優勝ができたのは、何といっても心（精神力）だと思います。

昭和54年の全日本選手権大会では、後のロサンゼルスオリンピック金メダリスト・山下泰裕さんと対戦。それまではどんな相手でも勝敗はわからないと思っていましたが、山下さんは別格でした。何度戦っても勝てるとは思えない、本当にこれほど強い人はいませんでした。

全国警察柔道大会無差別級では3位1回、準優勝3回ですが、優勝できなかったのは、何かが足りなかったのだろうと反省しています。

就職後もいろいろな方に指導を受け、その中に異色の武道家がいました。警察学校の逮捕術の指導者・芦原英幸先生（芦原空手初代館長）です。目力、精神力、体の捌き方、どれも素晴らしいの一言に尽きます。柔道一筋の道と違う武道家にこのような方がいたんだ！と感服しきりです。武道の話をするようになり、付き合いをさせていただきました。数年が過ぎ、先生が「棟ちゃん、付き合いのある梶原一騎さん

▲収穫間際のさやえんどうとレモンの木をバックに。鍬をもつ姿も凛々しい棟田さん

息子に東京の柔道私塾・講道学舎への入寮を問うと首を縦に振り、上京。当時の講道学舎は1年生約18人、息子は中ほどの強さだったと記憶しています。息子へも特別な英才教育はしていませんが、基本はしっかりと身につけさせました。試合はしっかり組んで技をかける。必ず前に出る。足腰の鍛錬は小野川の土手のランニングです。

柔道は本人の気持ちひとつで大きく変わり、特に成長期の子の力は素晴らしい可能性を秘めています。息子にも道場の生徒にもイメージトレーニング的な暗示をよくかけてきました。最近強くなった、技が良くなった等、良いイメージを与え伸ばしていきます。指導は「この技はいかんけど、この技は良いからこうするんだよ」とアドバイスし、少しずつ強くなってくれます。子どもを委縮させずに、一生懸命やれば必ず勝てると話します。強くなりたいという意欲を植えつけ、子どもを信じて長い目で見守ること。息子は私が叶わなかった世界の頂点に立つという偉業を成し遂げました。

現在は少年柔道の指導と50坪の畑で家庭菜園を楽しんでいます。松山市農協で種や肥料を購入して育てた野菜は美味しいです。

が描く漫画『空手バカ一代』に棟ちゃんモデルで四国の柔道王として載るからね」と言われビックリしたのを昨日のことのように思い出します。

10年間四国で王座を守るためにはいろいろ研究し、私に合う柔道をマスターしてきました。上背のある人と戦うために芦原先生の捌き方も研究したものです。そうしたいろいろな方のおかげで王座を守ることができました。

なぜ息子・康幸を中学で上京させ柔道をさせたかと問われることがあります。小学6年生の時、愛知県以西100人超が出場する西日本少年柔道大会の個人戦での優勝が最大の要因です。それまで柔道に興味を示さず、優勝に一番驚いたのは当の本人であったかもしれません。

●平28年度愛媛県果樹同志会大会
「かんきつ県！愛媛ブランド日本一！」をテーマに開催

県内果樹生産者で組織する愛媛県果樹同志会は、3月23日、松山市の㈱えひめ飲料本社で『かんきつ県！愛媛ブランド日本一！』をテーマに、「平成28年度愛媛県果樹同志会大会」を開き、29年度の活動方針などを決めました。

大会には、同志会員ら関係者約400人が出席。愛媛県果樹同志会の松浦喜孝会長は、「県内全ての生産者が消費者においしい柑橘を届けていけば自ずと愛媛ブランドの構築ができる。愛媛ブランド日本一をめざし、お互いに切磋琢磨して邁進しよう。29年産の生産に全力で取り組み、来年のこの大会で皆が笑顔で会えるよう頑張ろう」と呼びかけました。

活動基本方針では、温州みかんで園地・樹ごとのバラツキが年々増している中で、隔年結果是正防止に取り組むとともに、中晩柑類・落葉果樹類を含め高品質安定生産対策に引き続き取り組むことにしています。また、産地の基盤整備の遅れなど多くの課題を抱える中で、果樹産地構造改革計画の実践と果樹農業好循環形成総合対策事業を有効活用し、優良品目・品種への転換や園地整備など経営基盤強化を図ることなどを確認しました。

大会宣言では、①見直せ基本管理　やって当たり前　安定生産、②周年供給で「かんきつ王国愛媛」の維持発展を、③先を見据えた基盤整備　将来につながる産地づくりを、④鳥獣害の防止は地域ぐるみで取り組もう－を採択しました。

大会では、28年度の活動報告や講演のほか、ＪＡ全農えひめの関岡光昭副本部長から「ＪＡグループ自己改革の取り組みについて」と題した情勢報告がありました。また、みかん祭り等

▲えひめみかん祭り果実コンクール吉井栄信さん（ＪＡおちいまばり）

▲えひめみかん祭りほ場コンクール農林水産大臣賞の忽那恵雄さん（ＪＡえひめ中央）

コンクール入賞者への表彰を行いました。主な入賞者は次の通り（敬称略。カッコ内はＪＡ名。※早生みかん果実コンクールとえひめみかん祭り果実・ほ場コンクールの主な入賞者は前号までに紹介しているため省略します）。

◆平成28年度柑橘園地若返りコンクール▽愛媛県知事賞＝前田正之（えひめ中央）

▽優等賞〈全農愛媛県本部長賞〉＝石山敏郎（おちいまばり）、〈愛媛県果樹同志会長賞〉＝前田隆造（えひめ中央）

●ＪＡえひめアイパックス㈱
ファーマーズマーケット「いよっこら」が3月19日にリニューアルオープン！

ＪＡえひめアイパックス㈱が運営するファーマーズマーケット「いよっこら」（伊予市下吾川）が、建物を増設して売場面積を従来の約1.4倍に拡大し、リニューアルオープンしました。

リニューアルにより建物の売場面積は約500㎡から約700㎡に拡大。鮮魚コーナーは屋外から屋内に移設して新たに寿司類の販売を開始するほか、仮設的なイメージだった花売場周辺を鉄骨で囲み屋根を付けて明るい雰囲気に整備しました。また、惣菜売場はバックヤードを整備し、県内産の肉・野菜を使用した新規メニューの投入で品揃えの充実を図っています。青果物売場のレイアウトを見直し、イートインスペースとベーカリーコーナーも新設しました。顧客サービスの充実により新たな顧客獲得と集客拡大をめざします。

３月19日と20日に開催したリニューアルオープ

ンイベントでは、お買い得商品のほか「豚汁サービス」（先着300名様）、「餅つき大会」「愛（え）の葉Girls（ガールズ）ミニライブ」のほか、25,000円分の旅行券や牛肉などが当たる「お楽しみ抽選会」などを実施。大勢の来店客で賑わいました。

●えひめ米品質向上推進大会

「にこまる」の特A獲得を機にさらなる品質向上を！

愛媛県米麦振興協会とＪＡ愛媛米麦生産者組織協議会などは、３月７日、伊予市のウェルピア伊予で、「えひめ米品質向上推進大会」を開きました。

大会は、生産者をはじめ関係機関・団体が一体となって需要に即した米づくりとえひめ米の品質向上により愛媛県の水田農業の振興を図ろうと毎年開催しており、ＪＡや生産者・行政などから関係者約90人が出席しました。

大会では、愛媛県産米のさらなる品質向上・高品質生産につなげようと、優良生産者を表彰したほか、「平成29年産米作付計画の基本的考え方」を示すとともに、「にこまる」の特Ａ獲得に向けた栽培法の説明や記念講演「主食用米の収量向上と多収穫米の栽培技術」の報告がありました。

ＪＡ全農えひめの関岡光昭副本部長は、「28年産米は、飼料用米の生産拡大により全国的な過剰作付けは解消した一方で、中食・外食向けの業務用米が不足する事態となりました。平成30年産からは、直接支払交付金の廃止や国による目標配分がなくなるなど、水田農業は大きな転換期にあります。こうした中、愛媛県産『にこまる』が、平成28年産米食味ランキングで最高ランク特Ａ評価を獲得したことから、にこまるのブランド化やえひめ米のイメージアップに追い風になりました。今大会を通じて愛媛県産米のさらなる品質向上・高品質生産につなげよう」とあいさつしました。

また、「平成28年度愛媛県良質米・麦作・大豆共励会」表彰式などが行われ、良質米共励会では、最優秀賞（愛媛県知事賞）の菅辰博さん（「農家の部ヒノヒカリ・にこまる部門」・ＪＡ周桑）ほか９農家を表彰。麦作共励会では、農家の部で田窪英二さん（ＪＡ周桑）、集団の部で農事組合法人ＳＧＫ組合（福田利幸代表・ＪＡ周桑）が最優秀賞を受賞しました。田窪さんは28年度の全国麦作共励会で全国米麦改良協会会長賞、ＳＧＫ組合は全国農業協同組合中央会会長賞を受賞しています。

▲県知事賞を受賞した菅さん

その他の受賞者は次の皆さん（敬称略・カッコはＪＡ名・市町名）。

◆良質米共励会【農家の部「コシヒカリ・あきたこまち」部門】▽優秀賞＝山之内駿介（松山市）▽優良賞＝福井順一（ひがしうわ）、伊東章（西条）、酒井馨一（ひがしうわ）【農家の部「ヒノヒカリ・にこまる」部門】▽優秀賞＝三好幸（うま）、井上裕也（ひがしうわ）、▽優良賞＝合田仁（うま）、佐名木人朝勝（周桑）、廣瀬千春（同）

◆麦作共励会【農家の部】▽優秀賞＝玉井康文（周桑）、梶原雅嗣（ひがしうわ）【集団の部】▽優秀賞＝農事組合法人瀬戸（宇都宮文隆代表・ひがしうわ）

◆大豆共励会【農家の部】▽最優秀賞＝井上勲（ひがしうわ）【集団の部】▽優秀賞＝農事組合法人妙口原生産組合（曽我敏数代表・周桑）

◆愛媛県農産園芸功労知事表彰（水田農業部門）＝出水愼（西予市）

●ひめライス無洗米キャンペーン抽選会

7,423通の応募の中から当選者600人選ぶ

㈱ひめライスは、３月10日、松前町の本社で、IHジャー炊飯器や伊予牛「絹の味」焼き肉セットなどが当たる「安心安全あらうまい！」キャンペーンの抽選会を行い、松田一人社長らが、7,423通の応募の中から当選者600人を選びました。

同キャンペーンは、12月19日から２月28日まで実施。期間中はテレビCMやリーフレットを通じて、無洗米「あらうまい！」の利便性と安心･安全をアピールしたほか、量販店で無洗米･にこまるコーナーの設置（45店舗）や店頭試食販売（15店舗）等を通じてPRに取り組みました。応募ハガキには、「いつも無洗米を買うので、たまに普通の米を買うと無洗米のありがたさが身に染みた。あらうまいは兼業主婦の味方」「タピオカでヌカを取っていることを初めて知り、安心しました」などの声が寄せられていました。

▲抽選する松田一人社長（中央）

同社は、今後も無洗米「あらうまい！」を戦略商品と位置付け、テレビCM放映等を通じてPRと販売拡大をめざします。

●出向く女性営農職員研修会

グループワークで地域の女性の要望に応える企画を検討

ＪＡ全農えひめ営農支援課は、３月３日、松山市内で、ＪＡ女性営農職員の交流を深め女性目線で営農活動を強化しようと、「出向く女性営農職員研修会」を開きました。

同研修会は、一昨年から実施しており今回で３回目。県内４ＪＡの女性TAC（地域農業の担い手に出向くＪＡ担当者）や営農指導員など７人が参加しました。

研修会では、「地域の活性化と女性の力～農家からの挑戦～」というテーマで、企業組合あぐり工房代表理事の山下由美さんが報告。

山下さんの要望、いよココロザシ大学の６次化産品の商品視察もふまえてグループワークを行い、女性農業経営者としての現状・課題・夢を出し合いながら、要望に応える企画やサービスの具体的内容、得られる効果・予算・スケジュールなどについて、これまでの経験やアイデアを共有しながら検討しました。

ＪＡ全農えひめは、オフィシャルスポンサーとしてえひめ国体を応援していきます！

ＪＡ全農えひめは、食を通じた地域貢献とスポーツ支援活動の一環として、第72回国民体育大会・第17回全国障害者スポーツ大会を応援するオフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーとなりました。

第72回国民体育大会（愛顔（えがお）つなぐえひめ国体）は９月30日～10月10日、第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔（えがお）つなぐえひめ大会）は10月28日～10月30日、県内で開催されます。

オフィシャルスポンサーとして、総合プログラム・ガイドブックへの広告掲載、大会ウェブサイトへのロゴ掲出等が行われます。また、大会愛称・大会マスコットの広告使用権や商品化権を活用し、「えひめみかん・いよかんジュース等愛用運動」ポスター、「にこまる」新CM、「伊予牛『絹の味』」・「ふれ愛・媛ポーク」のシール等にえひめ国体応援ロゴを使用します。

また、オフィシャルサプライヤーとして、大会関係者の弁当食材に里芋・長なす、選手等へ温室みかんを提供し、全国から愛媛を訪問する皆さんに愛媛産果実・野菜をPRしていきます。

ＪＡ全農えひめとは別に、㈱えひめ飲料も、オフィシャルサプライヤーとして、みかんジュース等を提供します。

えひめ国体は、昭和28年に四国４県で共同開催して以来64年ぶり、初の愛媛県単独開催となる大会です。地域をあげて、大会の成功に向けて応援していきましょう。

「えひめの食」企画のテレビ広報番組があいテレビで5月からスタート！

ＪＡ全農えひめ「えひめの食」企画の平成29年度広報番組（えひめ愛フード推進機構と共同提供）が、５月からあいテレビでスタートします。

番組では、「地域の魅力素材」に焦点を当て、「愛」あるブランド産品を中心に、生産者の想いや、シニア野菜ソムリエのやのくにこさんによる旬の食材を使った、思わず作りたくなる魅力のあるレシピを紹介。購買意欲促進と消費拡大につなげていきます。

なお、番組の詳細は「えひめの食」企画ホームページまで。番組告知やテレビ番組放送分の視聴ができます。

■放送局　あいテレビ

（1）「えひめの食　食べて応援！旬なイッピン」

毎月第２・第４日曜日11時40分から５分間放映

※５月14日から来年３月まで、毎月第２・４日曜日（一部５週月は５週目も含む）に計23回放映します。

（2）「地産を食べよ！旬なイッピン」

第１・３水曜日を基本に「NEWSキャッチあい」（18：15～18：53）　内で６分間放映

「食べて応援！旬なイッピン」と連動し、生産者のこだわりや調理方法を紹介します！

※５月からスタートし、来年３月まで計15回放映します。

◇ テレビ放送スケジュール（予定）

回	放送日	品　目
1	５月14日（日）	乾しいたけ
2	５月28日（日）	ふれ愛・媛ポーク
3	６月11日（日）	裸麦
4	６月25日（日）	ジュース
5	７月　９日（日）	絹かわなす
6	７月23日（日）	きゅうり
7	８月13日（日）	ピーマン
8	８月27日（日）	伊予牛「絹の味」
9	９月10日（日）	新米
10	９月24日（日）	里芋
11	10月　８日（日）	栗
12	10月22日（日）	温州みかん
13	10月29日（日）	柿
14	11月12日（日）	にこまる
15	11月26日（日）	紅まどんな
16	12月10日（日）	はれひめ
17	12月24日（日）	あまおとめ
18	１月14日（日）	いよかん
19	１月28日（日）	春菊
20	２月11日（日）	甘平
21	２月25日（日）	せとか
22	３月11日（日）	アスパラガス
23	３月25日（日）	ブラッドオレンジ

※ 取材品目については、変更の可能性があります。

▲第１回放送のＪＡひがしうわの高橋征敏さん（左）と平繁かなえアナウンサー

▲第１回料理収録のやのくにこさん（右）

READERS 通信

●農業者所得増大チャレンジ事業の取り組み状況を読んで。県域での生産振興対策の必要性・重要性はかなり高いものであると思います。特に放任園の問題については、非常に重く受け止めており、農業界の高齢化が改善されることを願っています。生産性強化に取り組み、若年層に対して農業の素晴らしさ、大切さを伝え続け、「若年層に農業を繋げる」ことが必要です。
（松山市・中田　動さん）

●特集を読み、生産基盤の脆弱化により、面積および生産量が減少傾向にあるため、労働力支援対策の確立・強化に取り組んでいただいて、県内ＪＡ間での広域選果や正品率の向上、土壌診断をすることで、農家の所得向上につなげていただきたいと思います。
（大洲市・大本　昭裕さん）

●愛媛いよかん大使消費宣伝キャンペーン。今年の伊予柑もとても美味しかったです。さすが柑橘王国＝愛媛ですね。私の住む大三島でも多くの農家さんたちが、いろいろな種類の柑橘を心を込めて作っていらっしゃいます。大変な作業もあり、頭が下がります。毎年伊予柑を食べて心も体も元気です。
（今治市・菅　隆子さん）

●私の息子は小学3年から中学3年まで、今治警察で柔道を学びました。礼節もしっかり身につき、もやしのような体がカッチリした体型になり、肉体的にも精神的にも成長したように思います。棟田さんの言葉の中に「ほめて育てることで子どもたちものびやかに成長していく」とありました。私の子どもも柔道と出会えて本当に良かったと思っています。
ＪＡ愛媛葬儀受付コンテストでは、葬家への心遣い、ことば使い、態度など、金融や共済の窓口・渉外とは違って大変だろうなと思いました。優勝したＪＡえひめ南の中川さんに拍手を贈りたいです。
（今治市・阿部　節男さん）

●棟田さんのエッセーを読んで。「怒るだけではいけません」というところにギクッとしました。いつも怒っているなあと…。ほめて伸ばすということは分かっていても、なかなかできないですが、頑張ってみます！
（今治市・藤田　亜紀子さん）

●統計ＢＯＸでさといもの収穫量が全国第5位と知りました。伊予美人は美味しいですよね。果樹は防除、除草、収穫と、高齢の身ではついていけなくなりました。野菜はいい!!
私の住んでいる吉海町では、火曜日と金曜日に小さい朝市が開催されます。今回は何を出そう、どんなものが出ているだろうと楽しみです。
（今治市・柳原　磯美さん）

●第30回ひめライス杯レディス卓球大会に、過去最高のエントリーがあったということで、スポーツとともにひめライスも周知されているのではないかと感じました。このように、スポーツや文化などを通じて、農産物・ブランドを人々に知ってもらえるような取り組みを多くしてほしいと思います。
（四国中央市・飛鷹　理子さん）

●第39回えひめみかん祭り。高島屋でこのようなイベントを行っていたなんて知りませんでした。柑橘の食べ比べも気になりますが、みかん丸ごと使った「みかん餅つき」食べてみたかったです。
（大洲市・浜江　浩子さん）

●えひめみかん祭り果実コンクールで、ＪＡおちいまばりの吉井さんが農林水産大臣賞に選ばれたほか、果実・ほ場コンクールに同じ管内の人がたくさん入賞していて、とても励みになりました。
（今治市・乾　律子さん）

●愛媛の酒蔵めぐり。最近は日本酒もいろいろな種類があって楽しいですね。「にごり酒」は超甘口ということですので、飲みやすそうですね。
（西条市・近藤　千恵さん）

●今月の素材を使ったクッキングを楽しみにしています。レタスは生で食べるイメージでしたが、火を通した料理が提案されていて、特に肉巻きフライはぜひ試してみたいと思いました。美味しそう！
（西予市・中元　妙子さん）

3月号のクイズ当選者

当選者発表

3月号の答えは「はるみ」でした。
たくさんのお便りありがとうございました。
厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

白石　千晶さん（今治市）　高橋八重子さん（新居浜市）
矢野美恵子さん（大洲市）　三森　時春さん（上島町）
山内　将裕さん（松山市）　河原富貴子さん（松山市）
毛利　徳子さん（西予市）　田岡　栄子さん（松山市）
高橋千代美さん（西条市）　田中　克也さん（松前町）

お知らせ

「あぐり～ど」は、６月号から隔月発行になります

ＪＡ全農えひめ情報「あぐり～ど」は、広報活動見直しの一環として、６月号から隔月発行（偶数月と新春特別号の年７回発行）となります。

今回の見直しは、広報誌の購読者だけでなく、幅広い層の皆さんに、全農事業の見える化・理解促進とイメージアップを図るため実施するもので、広報誌の発行回数は減少しますが、ニュースやお知らせ等についてホームページからの情報発信を強化します。また、マスメディアやSNS等を活用した情報発信と広報活動の強化に取り組んでまいります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

編集後記

★初めまして。今月号から「あぐり～ど」の編集担当となりました西村有紗です。入会３年目、昨年度までは畜産部畜産販売課に所属していました。写真を撮ることも、記事を書くことも初めてのことばかりですが、とにかく自分の足でたくさんの現場へ出向き、皆さんにより分かりやすく、そして楽しく読んでいただける「あぐり～ど」をお届けしていきたいと思っています。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。
（有紗）

NOW NOW COOKING

今月の素材

豚モモ肉(ふれ愛・媛ポーク)

▶（右）豚肉と新ジャガの塩バター炒め煮、（前）茹で豚　香味ソース、（後）豚肉の中華風おこわ

㊣脂肪、㊣鉄分＆ビタミンＢ１
カラダにとってもいいポーク

指導／学校法人愛媛学園　（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

豚肉の中華風おこわ

〈材料・４人分〉　※1人あたり約423kcal

	もち米	２合
	うるち米	１合
	豚モモ肉（ブロック）	100ｇ
Ⓐ	酒	大さじ１
Ⓐ	醤油	小さじ１
Ⓐ	生姜汁	小さじ1/2
	筍（水煮）	100ｇ
	人参	1/4本
	ゴボウ	1/2本
Ⓑ	鶏ガラスープ	540cc
Ⓑ	酒	大さじ１
Ⓑ	醤油	大さじ１
	ゴマ油	大さじ１
	青ネギ（小口切り）	２本

〈作り方〉

① 豚モモ肉は１㎝の角切りにし、ボウルに入れ、Ⓐをまぶし、よくもみこむ。
② 筍、人参、ゴボウは７㎜角に切る（肉より小さめ）。
③ 炊飯器に洗ったもち米、うるち米を入れ、①と②を加え、Ⓑを入れて炊く。
④ 炊きあがれば、ゴマ油を入れ、混ぜあわせて器に盛りつけ、青ネギをふる。

茹で豚　香味ソース

〈材料・４人分〉　※1人あたり約338kcal

豚モモ肉（ブロック）	500ｇ
生姜（薄切り）	１かけ
白ネギ（青い部分）	１本分
レタス	４枚
ワカメ	40ｇ
〈香味ソース〉	
サラダ油	大さじ１
白ネギ（みじん切り）	１本分
生姜（みじん切り）	１かけ
ニンニク（みじん切り）	１かけ
豆板醤	小さじ１
醤油	大さじ３
酢	大さじ２
砂糖	大さじ１
ゴマ油	大さじ１
ピーナッツ（刻んだもの）	10ｇ

〈作り方〉

① 大きな鍋にたっぷりの水、生姜、白ネギ（青部）、豚肉を入れて火にかけ、沸騰したら弱火で30～40分煮て、火を消し、粗熱をとる。
② （香味ソース）。フライパンにサラダ油を熱し、ニンニク、生姜を炒めて、香りを出す。
③ ②に豆板醤を加え、白ネギを炒め、醤油・酢・砂糖を加え、ひと沸きさせる。
④ 最後にゴマ油とピーナッツを混ぜる。
⑤ 器にレタスとワカメを盛りつけ、①を食べやすい大きさに切り、④をかける。

※作り方①の豚肉は竹串がスッと通ればＯＫ。弱火でじっくり煮ると、しっとりとした肉質になる。

豚肉と新ジャガの塩バター炒め煮

〈材料・４人分〉　※1人あたり約225kcal

豚モモ肉（スライス）	200ｇ
新ジャガイモ	小８個（約400ｇ）
新タマネギ	１個
スナップエンドウ	８本
水	100cc
コンソメスープ（キューブ）	１個
塩・コショウ	少々
バター	10ｇ
レモン（スライス）	1/2個
黒コショウ	少々
イタリアンパセリ（みじん切り）	適量

〈作り方〉

① 豚モモ肉は５㎝幅に切る。
② 新ジャガイモは皮付きのまま半分に切り、サッと水で洗い、電子レンジ900W約３分かける。
③ 新タマネギは１㎝幅のくし切り、スナップエンドウは筋をとり塩茹でして冷水にとる。
④ フライパンに油を熱し、①、②、③のタマネギを炒め、塩・コショウをふり、水とコンソメを入れて蓋をし、蒸し煮にする。
⑤ 火が通れば、バターとレモンを加え、スナップエンドウを入れて、全体にからめる。
⑥ 器に盛りつけ、パセリ、黒コショウをふる。

熱中症対策に！
POM
塩と夏みかん
SALT & NATSUDAIDAI
伯方の塩 使用
国産夏みかん 使用
カロリーオフ
アイソトニック飲料
栄養成分表示（100ml あたり）エネルギー 18kcal / たんぱく質 0g / 脂質 0g / 炭水化物 4.5g / ナトリウム 53mg　食塩相当量（490ml あたり） 0.66g
株式会社えひめ飲料
〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL：089-923-1500 FAX：089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp
（通販専用）http://www.pom-j.com

2017
5月号
No.989

●発行／全農愛媛県本部　〒790-8555　松山市南堀端町2番地3　●編集人／高井　雄二
●編集部／総務課☎(089)948-53323　●印刷／コープ印刷㈱

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。